春日っ子　瞳かがやけ　たくましく

３月　春光

銚子市は比較的温暖で、全国的に見ると冬でも過ごしやすいところです。それでも今年の冬は寒さが厳しく、登校時間に地面が凍り付くような日もありました。その時期もようやく過ぎ去り、校庭の木々は一斉に春らしくなってきました。子どもたちは、この１年間、勉強に運動に精一杯の力を発揮してきました。残りわずかですが、６年生は小学校生活のまとめとして、また、在校生は新たに進級する準備として、限られた日々を充実したものにしていきたいところです。私たち教職員一同、力を尽くして取り組んでいきたいと思います。これまで同様、ご支援、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

学校評価アンケートについて

１年間の取組を振り返り、次年度、更によい学校をつくっていくために、保護者の皆様にアンケートをお願いしました。合わせて子どもたちや教職員にもアンケートを実施しました。このたび、そのアンケート結果がまとまりましたので公表いたします。なお、子ども、保護者、職員の比較ができるよう、アンケートの文言を統一してありますのでご了承ください。

※「子ども」「保護者」「職員」の共通項目の評価について

児童一人一人の可能性を引き出す活力ある学校づくり		４点を満点とした達成度		
		子どもの回答	保護者の評価	職員の評価
確かな学力	１　一人一人を大切にしたわかる授業の実践	３．５	３．２	３．３
	２　思考・表現を重視した授業の実践	３．０	３．２	３．２
	３　家庭学習の習慣づくり	３．４	３．１	３．１
	４　読書活動の充実	３．１	３．０	３．３
豊かな心	５　学年・学級での心の交流と集団づくり	３．５	３．３	３．６
	６　あいさつや返事等基本的生活習慣の徹底	３．３	３．３	３．５
	７　いじめ等への早期発見・対応	３．７	３．２	３．６
	８　道徳教育の充実	３．４	３．０	３．０
健やかな心と体	９　気力・体力の向上	３．４	３．１	２．９
	10　家庭と連携した保健・安全指導	３．２	３．２	３．２

○「確かな学力」の項目に関して

職員アンケートでは日頃から「一人一人を大切にし、わかった・できたを実感できる授業」を行っていこうと努力してきた成果を感じた。また、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善については、新しくなった学習指導要領の理念を意識し、年代別研修や校内研修を通して授業改善に努めてきた成果が現れていると思われる。日常

の授業において、学習規律の徹底を図り、学習の基本を身につけていくことは大切であり、意識して取り組んできた。また、読書活動については、本校児童の良い点を更に伸ばしていくことや、一日のはじめを落ち着いた雰囲気の中でしっかり行っていくための手立てとしても有効であり、毎日欠かすことなく実践された。

授業の振り返りや自己評価の設定については、その時間確保に努めてきたものの、十分に行うことができたとはいえない状況であった。また、家庭と連携した家庭学習や自主学習の習慣化についても、日々の努力を重ねてきたが、それぞれの違った状況があり、全ての児童に十分できたとはいえない。今後の継続課題である。

保護者アンケートでは、本年度も、授業参観等が実施できなかった関係で、授業での児童の様子などを見せることができなかったことから、いずれの項目に関しても、低い傾向がみられる。そのような状況ではあるが、「分かりやすい授業」「思考の場の確保」と言う点では比較的よい傾向が感じられる。家庭学習の習慣化や読書活動については、意識して取り組んでくれた家庭も多くあった反面、難しさを感じている家庭も多くあったことがうかがわれる。コロナ禍において、児童が家庭で過ごす時間が多くなったことや、外出の自粛等で家庭において学習を進めていかなければならない場面が生じてきたことなど、家庭で学習をすることの重要さがこれまで以上に大きくなってきている。タブレットの活用や自学の推進を更に進めていく必要を感じている。

児童アンケートでは「授業が楽しくわかりやすい。」が高い評価を示している。学校での大半の時間を占める授業が楽しいことは、学習に対する意欲につながり、学校生活全般に良い影響をもたらす。連動して「授業中、先生の話をよく聞いたり発表のルールを守ったりノートをきちんと書いている。」も高い数値を示している。これらの点については以前から高い数値を示しており、春日小児童の大きな特徴であるといえる。この長所は本校の財産としてこの先も継続して大切にしていきたい。授業での話し合い活動については新型コロナウイルス感染予防のために多くの制約があり、なかなか思うようにできなかったことがうかがわれる。宿題や自学については、教師や保護者が感じている以上に児童は頑張っている意識を持っている。朝読書については、毎日の日常的な取組の一つであり、児童にとってはすでに生活の一部であり、特別に頑張っているわけではないといったイメージがあるようである。その結果、評価は低いが、学校での読書活動が広がり、家庭においても自発的に本を読むようになってもらえると、更に意識が高まってくると思われる。

○「豊かな心」の項目に関して

職員アンケートでは多くの項目で３．２（３．２以上はＡ評価）を上回った。その中で、「児童のよさを認め合う学校・学級づくり」や「いじめの早期発見・対応」については日々の生活全般で意識的に取り組んでいる姿勢が現れている。また、「あいさつ・返事・基本的な生活習慣」に置いても高い数値を示しており、学習だけでなく、心の教育の大切さを十分に感じながら取り組んでいる教師の姿勢がうかがわれる。道徳の授業については、新たな道徳の考え方による授業が工夫できるように実践的な取組が求められてくる。研修等の充実を図っていくことが大切だと感じている。

保護者アンケートでは、教師や児童より低い傾向はあるが、「子どもの良さを互いに認め合える学級とする取組」や「基本的な生活習慣を身につけさせる指導」に関して、他の項目より高い傾向を示している。これは学校での子どもの様子や、あいさつ、返事などの生活習慣の伸びがうまく家庭にも伝わってきていることが考えられる。各担任や担当教師が子どもの良いところや成長の様子を認め、家庭にも伝えている姿が多くみられ、それらもこのことに貢献しているのではないかと感じる。「道徳の授業」については、学校ではもちろんだが、家庭でのニーズの高まりもあり、より多くのものを望んでいることがうかがわれる。更なる強化を図っていく必要がある。

児童アンケートでは「友達どおし、お互いのよさを認め合っている。」「友達をいじめたり友達にいじめられたりしないで仲良く過ごしている。」「学級のみんなは思いやりがあり、優しい。」の評価が高い数値を示している。学校での児童の日々の生活をみると、いろいろな問題や友達関係で悩みを抱える児童もいる。多くの人々が共に生活している場である。当然、思い通りにいかないこともたくさんあるはずである。しかし、一人一人が相手を思いやる気持ちをもって行動できるところが春日小学校の児童の素晴らしいところである。この長所をいろいろな活動場面で生かせるように取り組んでいきたい。

○「健やかな心身」の項目に関して

職員アンケートでは、新型コロナウイルスによる活動制限のため、一昨年度まで行ってきた体育学習の多を制限された中で行わなければならなかった。各教師は手探りの中で可能な運動を選択しながら実施してきた。そのため通常の状態から考えると、満足のいく学習とはならなかったようであった。そのような中ではあったが、運動会に関連した体育学習や体力テスト、器械運動、縄跳びの活動など、いろいろなアイデアを出し合って取り組んでいた。成果として十分なものを得られたわけではないが、この状況の中で何ができるのかを考えて取り組んだことに価値を感じている。「児童の健康教育」については、通常の指導に加え、新型コロナウイルスへの対策や指導を養護教諭をはじめ、全職員が全力を尽くして行ってきた。このことで、最悪の事態へと進展していくことを防ぐことができていると考える。また「児童の健康や安全に関する指導の家庭との連携」については、こまめに連絡を取りながら指導がいきわたるようにし各家庭が感染防止等の実践をしっかりと進めてくれているおかげだと感じている。

保護者アンケートでは、「健康や保健、安全に関する指導」については、学校からの連絡や指導について、よく理解を示してくださり、大きな協力をいただきながら進めていくことができた。「体力の向上」については、自主的にかかわっていくことは難しかったようであった。通常の年であれば、PTA を中心として組織的に活動がなされていくはずだったが、本年度も会議を持つことすら難しかった。次年度以降、積極的な活動が可能となることを望みたい。

児童アンケートでは、「体育の時間はめあてをもって進んで運動」「進んで体を鍛えている」に高い数値を示している。制限の多い中でも思い切り力を出して運動しようとする児童の姿を頼もしく感じている。この子たちの気持ちにこたえていくことができるよう、次年度以降、いろいろと工夫をして運動に取り組ませていきたい。「早寝、早起き、朝ご飯など、健康に気を付けている。」でも頑張っている様子がうかがわれる。自分の健康を自分で守っていかなくてはならないという自覚が多くの子に芽生えている。しかし、まだまだ支援の必要な児童も多い。基本的な生活習慣であり大切な事項であるので、全児童が自分で考え実践できるよう、取組を継続していく必要がある。

※共通項目以外の評価について

信頼される学校づくり、組織的・機動的な学校づくり		4点を満点とした達成度	
		保護者の評価	職員の評価
安心安全な学校	① 学校教育方針の明確な説明	3．3	3．3
	② 教育活動における児童の様子の周知	3．0	3．2
	③ 個人情報の保護、管理	3．5	3．8
	④ 安全確保体制の充実	3．2	3．5
	⑤ 防災・防犯に対する訓練の計画的実施	3．4	3．6
管理運営	⑥ 一致協力した職員体制	3．2	3．2
	⑦ 施設・設備面の充実	3．0	2．1

○「信頼される学校づくり」の項目に関して

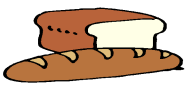
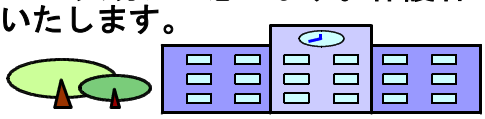
職員アンケートでは「安心・安全な学校づくり」に関する多くの項目で３．２を上回った。「学校の教育方針の説明等」では、行事や集会を行うことができなかった状況であったが、学校でも生活を理解してもらうために学年だより、学校だより、各担当からの連絡プリント、児童の連絡帳、マチコミメール等を駆使しながらできる限り行ってきた。一昨年度に比べればまだまだ足りないところだが、今後も更なる取組をしていきたい。関係機関やスクールカウンセラーとの連携は学校教育を進めていくために欠かすことのできないものであり、そのことを職員が十分に意識して日々の教育活動を行っている。不祥事につながる事態を防ぐため、モラールアップ委員会の活動や個人情報保護に力を入れて取り組んでいる。また、安全な学校づくりといった観点から、危機管理マニュアル、不審者対応、防災、防犯に関する避難訓練等、命に係わる重要なものであることを念頭に置き、計画的に実施してきた。ワンポイント避難訓練等は日常的に行ってきた。

保護者アンケートでは、「児童の学校での様子が、学年だよりや学級懇談会、電話連絡や家庭訪問等で十分知らされている。」が唯一、３．２に届いていなかった。保護者が学校での児童の様子を知りたいと思うニーズは職員が感じていた以上に高いことが分かった。学校での様子がよくわかる手立てとして、これまで行ってきた電話や家庭訪問はもちろんのこと、いろいろな手段を講じて伝えていく必要があることを感じた。「個人情報の保護」「防災・防犯の避難訓練」については職員の評価と同様、高い数値を示していた。これまでの取組の継続とともに、新たな時代に対応できる工夫をしていきたい。

○「組織的・機動的な学校づくり」の項目に関して

職員アンケートでは「施設設備」に関する項目の評価が低かった。しかし「不祥事根絶」「適正な事務処理」については高い数値を示している。個人としての取組は重要であるが、それだけでは解決しようがない問題も数多く存在する。引き続き、取り組んでいかなければならない問題に対して組織としての対応ができるように行っていきたい。「多忙化解消」については、これまでも継続した課題であった。子どもたちにより良い教育を提供していくためには、教師の心身の健康が必須であり、そのための「多忙化解消」であることを、今一度振り返り、原点に戻って、その改善策に取り組んでいかなければならないと感じている。「施設設備」に関しては、本年度から４年計画で校舎の大規模改修が進行中である。工事に伴う使用制限等で学習環境が狭められてしまうことが問題であるが、学校環境のよりよい改善のための工事であることから、調整や工夫をしながら進めていかなくてはならない。

保護者アンケートでは「施設設備の整備」に関する項目で３．２を下回った。校舎や設備の老朽化については長年の課題であり、ようやく改修工事が始まったばかりである。工事が完了するまでにはあと３年の月日がかかる。その間は今以上の使用制限も予想されることから、しばらくの間は不便な生活をしていかなければならない。しかし、長い目で見たときの環境整備であることを理解していただき、工夫をして児童が学校生活を送れるようにしなければならないと考えている。



※　全体的な傾向としては、新型コロナウイルスの影響で、昨年度に引き続き、例年予定されている学習や行事等の実施ができなかったために、評価が低くなってしまった項目があることを感じました。また、個別に分析していくと、工夫や努力により、児童も教師も保護者も、まだまだ向上が望める項目もあることもわかってきました。私たちは、これらのご指摘を真摯に受け止め、更によりよい学校を目指して努力していきたいと思います。新型コロナウイルスによる制約がすぐに解除されるわけではないことを念頭に置き、地道に努力を積み重ねていくことが大切だと思います。保護者・地域の皆様には、更なるご支援、ご協力の程お願いいたします。